



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
6. 糖尿病患者さん食事体験入院
7. 関節リウマチ患者さん教育入院

○お盆休みの期間中など、一時的に在宅医療の継続が困難となる場合、地域包括ケア病棟『彩り（いろどり）』をご利用下さい。

○地域包括ケア病棟『彩り（いろどり）』に関するご要望をお寄せ下さい。

直通電話：0774-73-1818



様々なご年齢やご病気の患者さんがおられますが、その患者さんに合わせた支援をしていきたいと思っています。相談しやすい身近な相談係になれるように心がけていきます。どんなことでもお気軽にご相談下さい。（中野 明子）



勤務11年になりました。患者さんやご家族、地域の皆様のご希望に応えられるよう努力していきます。ご相談がありましたら遠慮なくお問い合わせ下さい。（中嶋 庸介）

離床時間の延長から、“患者さんの楽しみ”へ

地域包括ケア病棟“彩り”では、平日11時15分より集団リハビリテーションを行っています。昨年8月より試験的に開始し、9月から毎日開催するようになりました。以前に実施内容をお伝えしたこともありますが、PT・OT・STにより運動内容を検討し、適度な負荷で行っています。

「体操、体操」と時間を気にされる患者さんや、実施している谷澤PTのことを「体操のお兄さん」と呼び、親しんでくださる方もおられます。また、患者さんだけでなく、来院中のご家族も参加されていることもあります。

集団リハビリテーションの主な目的は「離床時間の延長」だったのですが、入院中の患者さんにとっての「楽しみ」も提供できているようです。(理学療法士 中村 裕太郎)

“傾聴ボランティア”の受け入れが始まります。

6月20日より、木津川市ボランティアセンターに登録しておられる、傾聴ボランティア「うさぎ」の方々に、地域包括ケア病棟“彩り”で活動をして頂く予定です。



傾聴ボランティアとは、不安や寂しさを誰かに聞いてほしいと感じている人の苦しみや悩みをじっくり聴いて共感することで心のケアをする活動です。地域包括ケア病棟に、新たな“彩り”を添えて頂けるものと考えています。詳細については次号以降、改めてご紹介させていただきます。

(事務局 総務担当副リーダー 大西 勝也)

地域医療連携室より

地域からの受け入れを促進しています。

日頃は当院の地域包括ケア病棟“彩り”に患者様をご紹介頂き、ありがとうございます。平成29年度は、全体の約30%を地域から受け入れをさせていただきました(下図)。リハビリ目的(身体、嚥下)や介護者の負担軽減(レスパイト)のための受け入れ、糖尿病や慢性腎臓病の教育入院など目的は様々です。平成30年度も引き続き、皆様からのご紹介で地域からの受け入れを加速させているところです。

これまでは、「〇月〇日から入院をお願いします」というように、予定入院のご依頼が多かったのですが、最近は「主介護者(介護している方)が緊急入院されたので、緊急で受け入れして欲しい」というご依頼(又は、緊急で受け入れをお願いさせて頂くかもしれませんが、という問い合わせ)が増えています。

緊急の受け入れご希望の場合は受け入れの段取りを急ぎます。受け入れの窓口である地域医療連携室では、スムーズに受け入れさせて頂くことを念頭に置き、時には院内を走り回って入院にかかわる関係部署と調整します。また、対応に迷う場合には地域医療連携室内で相談します。

今後も、地域の高齢化などを背景にして、緊急で受け入れして欲しいというご依頼が増えるのではないかと考えています。地域の皆様のご依頼に応えられるよう対応してまいりますので、引き続き、地域包括ケア病棟“彩り”をよろしくお願いします。(地域医療連携室 室長 南出 弦)

地域からの受け入れと転棟の割合

